

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2021年4月から6月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業62、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業46
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：182社（66.9%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

— 大幅に業況改善するも、マイナスが続く —

前年同期（2020年4月～6月）と比べた今期（2021年4月～6月）の状況
今期と比べた来期（2021年7月～9月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲23.6で、前年同期と比べ39.5ポイント上昇しました。昨年同期比の業況は大幅な好転となりましたが、新型コロナウイルス流行前の水準には及ばず、緩やかな回復傾向にあった市内景況は、5月の緊急事態宣言発出や飲食店への営業時間短縮要請などの影響で、再度停滞が懸念されています。観光業を中心に業況が伸び悩み、需要の停滞や原材料価格、商品仕入価格、燃料費の高騰が課題です。

業種別DIは、製造業が同49.4ポイント上昇の▲11.4となりました。業況DI、売上DI、採算DIのいずれも大幅に好転し、設備操業率DIと引合いDIがプラスに転じましたが、原材料価格の高騰が顕著です。卸売業は同48.2ポイント上昇の▲15.8となりました。売上DIが大幅に好転しましたが、需要の停滞に加え、仕入単価の上昇も大きな課題です。小売業は同54.8ポイント上昇の▲25.9となりました。客単価DIや客数DIが上昇しましたが、回答に占める不変や悪化の割合が大きく、低調な回復にとどまると推測されます。運輸・倉庫業は同38.2ポイント上昇の▲5.5となりました。旅客運送の売上DIが大幅に上昇しましたが、貨物運送は低調な推移にとどまり、倉庫では大幅に低下しました。観光業は同36.1ポイント上昇の▲63.9となりました。業況DI、採算DI、売上DIいずれも大幅に好転しましたが、業況DIと採算DIは回答に占める不変または悪化の割合が9割を超えており、依然として深刻な状況にあります。サービス業は同33.8ポイント上昇の▲30.5となりました。飲食業では全ての企業が採算と資金繰りが悪化したと回答しています。需要の停滞、利用者ニーズの変化への対応が主な課題です。建設業は同16.0ポイント上昇の▲12.5となりました。業況DIは上昇しましたが、売上DIと採算DIは低下しました。建設業では長期に渡り、従業員の確保難が経営上の問題点の1位でしたが、今期は材料価格の上昇が最大の課題となっており、影響の大きさが伺えます。

来期の業況判断DIは▲11.0で、悪化傾向が弱まると予想しています。新型コロナウイルスのワクチン接種の拡大によって人流の回復が期待される一方で、ワクチン接種の停滞や変異株の流行が懸念されています。コロナ禍が終息しても景気回復には時間がかかり、国民の生活様式は当面の間元に戻らないのではないかと懸念もあり、予断を許さない状況が続くと思われます。

業況、売上、採算

今期（2021.4～6）の業況判断DIは▲23.6で、前年同期(2021.4～6)と比べ39.5ポイント上昇し、大幅に好転しました。

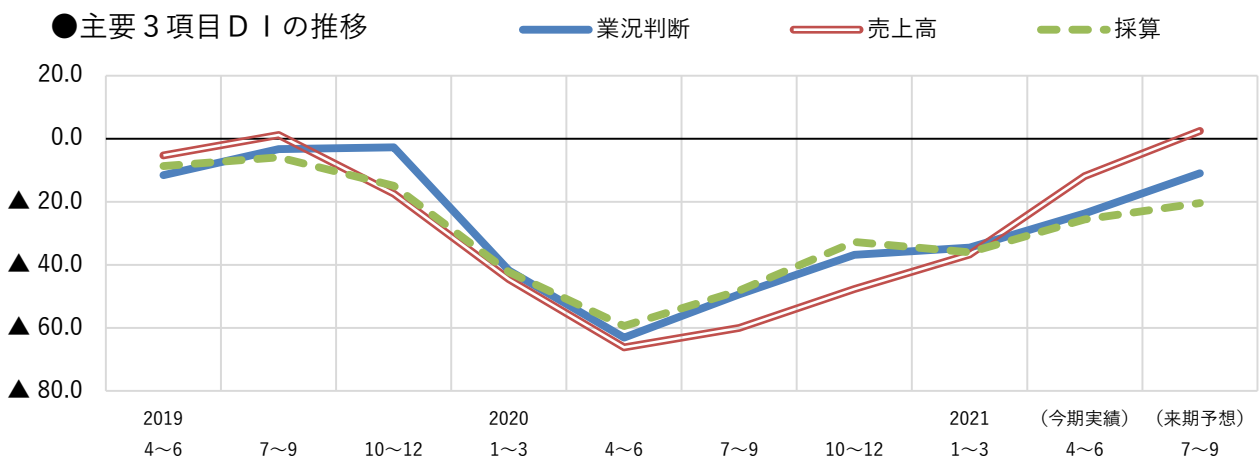
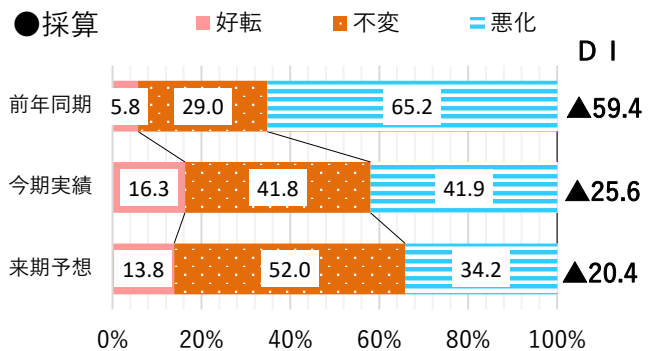
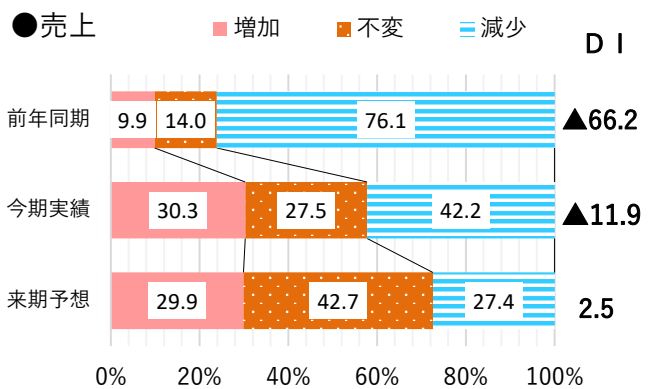
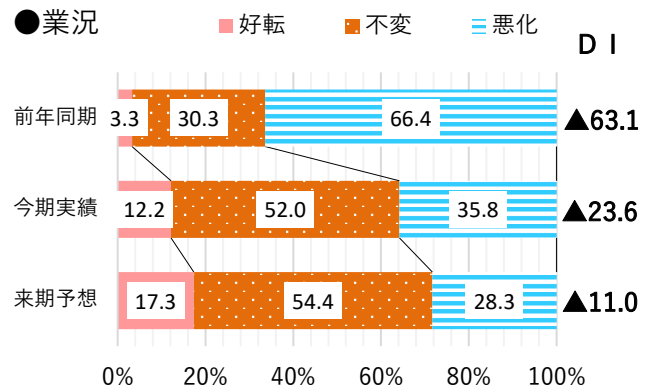
来期（2021.7～9）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上DIは▲11.9で、前年同期と比べ54.3ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

今期の採算DIは▲25.6で、前年同期と比べ33.8ポイント上昇し、大幅に好転しました。

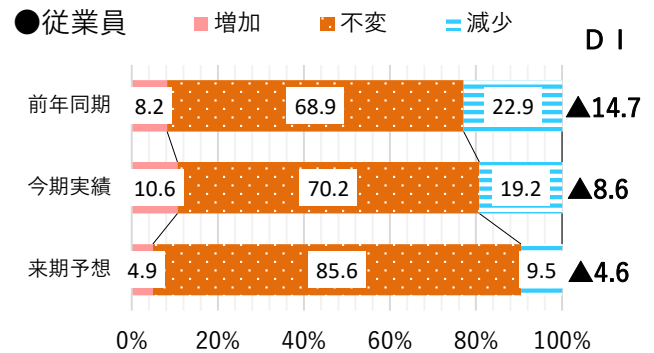
来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



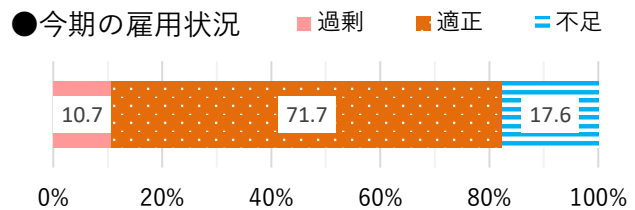
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.6で、前年同期と比べ6.1ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は10.7%、適正であると回答した企業の割合は71.7%、不足していると回答した企業の割合は17.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の52.7%を占めています。

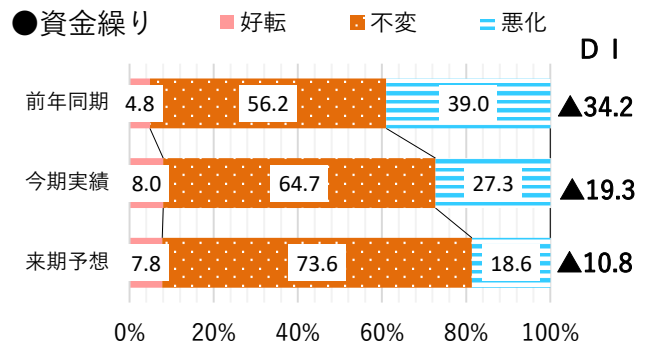
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	3
	適正	14
	不足	1
不変だった	過剰	12
	適正	96
	不足	19
減少した	過剰	9
	適正	18
	不足	10

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲19.3で、前年同期と比べ14.9ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった182社の25.3%にあたる46社が実施、前年同期と比べ1.8%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「建物」、「OA機器」(同位)の順です。

来期は、29.1%にあたる53社が設備投資を計画していると回答しています。

